

○献血グロベニン-I 静注用 [注]

【重要度】 【一般製剤名】乾燥ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン freeze-dried polyethylene glycol treated human normal immunoglobulin 【分類】
静注用人免疫グロブリン製剤

【単位】 ▼500mg・○2500mg/瓶 【特生物】

【常用量】 ■重症感染症における抗生物質との併用：1回2500～5000mg ■特発性血小板減少性紫斑病：200～400mg(4～8mL)/kg 体重 [最大5日間] ■その他は添付文書参照

【用法】添付の注射用水で溶解し、緩徐に静注、点滴静注 [初期1時間は0.01mL/kg/分、最大0.03mL/kg/分]

【透析患者への投与方法】減量の必要なし (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】減量の必要なし (5) 【その他の報告】腎機能が悪化するおそれがあるため慎重投与 (1)

【特徴】静注用人免疫グロブリン製 (IgG) 剤。細菌感染症の場合には、血液中及び病巣部において補体を活性化による免疫溶菌作用、オプソニン作用、毒素中和作用を示すとされる。

【主な副作用・毒性】ショック、アナフィラキシー様症状、肝機能障害、黄疸、無菌性髄膜炎、急性腎不全、血小板減少、肺水腫、不安、頭痛、発熱、悪寒、腹痛、悪心などの副作用は投与速度を下げることにより軽快する (Clin Pediat, Jan, 23-31,1996) など

【t1/2】17.7日 (1)

【MW】IgG として156000～161000

【透析性】分子量が大きいため透析で除去されない (5)

【備考】30℃以下に凍結を避けて保存

【更新日】20140508

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。